

附 貨

昭和十二年一月二十三日 第三種郵便物認可
昭和十九年二月二十五日 印刷 納本
昭和十九年三月一日 每月一回一日發行
禁轉載

道路の改良

第二十六卷
第三號

社団法人
道路改良會



鋪裝報國



鋪

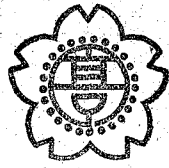
東京都淺草區花川戶一ノ一松屋ビル七階

日本鋪道株式會社

社長 淺利三朗

電話淺草(84)八二四一・八二四二・八二四三
東京・大阪・福岡・札幌・京城・臺北・新京・橫濱・名古屋・京都

土木建築
道路鋪裝
工事請負



株式會社 高野組

本社

東京都京橋區越前堀二丁目一番地

電話京橋(56) 七、八二五番・八、〇七二番

倉庫

東京都品川區東品川三丁目三番地

電話高輪(44) 五、三四〇番

福岡出張所

福岡縣糟屋郡和白村奈多

電話和白 二、一八番

青森出張所

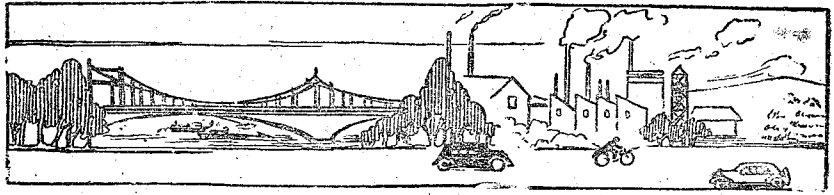
青森縣上北郡三澤村古間木

電話古間木 三、七番

上海出張所

上海市西陸戰隊通り一八五

電話(02) 八三九五〇番



道路の改良 第二十六卷 第三號 目次

昭和十九年三月一日發行

卷頭言

研究

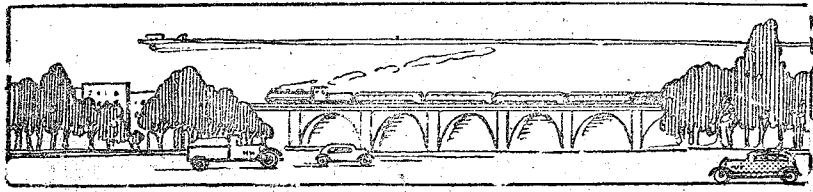
土木建築業整備要綱につき……………中川幸太郎(三)

印度の歴史産業交通の概況(一)……………H T 生(五)

説苑

大東亞交通政策(下)……………華中鐵道會社々長 田 誠(八)

聖路加の旅行記録の重要性……………長谷川久一(一〇)



スマートラの道路、自動車事情……………清野謙六郎(三)

内務省特報

知事の交迭◎各府縣内政部長事務打合せと内相の訓示要旨……………(二〇)

法令

最近内務省に於ける路政關係行政處分例……………(三)

雜報

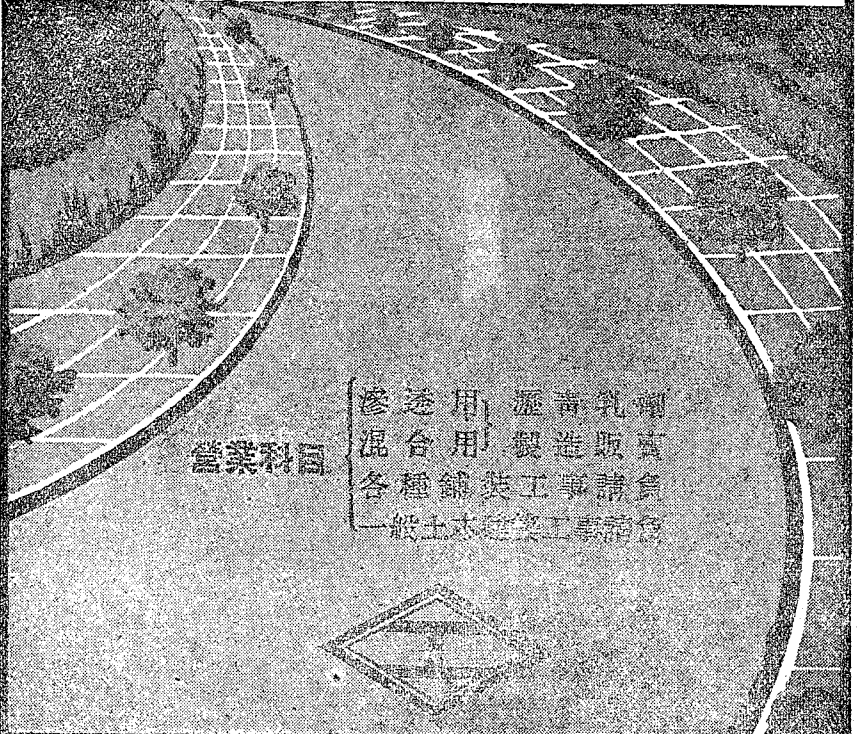
◎道路功績者の表彰◎道路愛護助成金の交付◎土木學會の役員交迭◎衣料切符の壓縮

◎近刊圖書雜誌……………(三)

編輯室の内外……………(元)

裝 鋪 路 道

(カ タ ロ ヲ 贈 呈)



營業科圖

瀝青乳劑
 製造販賣
 各種鋪裝
 工程請洽
 一般土木建築工事請洽

東邦工業合資會社

本 社 東京都赤坂區青山北町四ノ一〇三
 電話青山(36)四九七三・四九七四・四九七五
 工 場 川 崎 市 幸 町 三 ノ 六 一 二
 營 業 所 小倉・岡山・名古屋・仙臺・大湊・札幌・高雄

特典附
新會員募集

日本土木工學會 牧彦七先生監修

實用工學木講座

師 講 以上初級の一部
 吉技正内工
 師雄務博
 工鴨下内務
 博岩武・農
 崎富久・他
 十數氏

東京都麹町區飯田町二ノ十一
 日本土木工學會
 振替東京二〇八三四番

入會の絶好機
 △初級一ヶ月三ヶ
 月修了。會費毎月
 一圓五十錢。送料
 二〇錢。前納料
 月修了。會費毎月
 一圓七十錢。送料
 二〇錢。前納料

初級・上級共に完成!!

内容の一部
 應 用 力 學
 鐵 筋 コ ン ク リ ー ト
 土 木 出 張 所 販 賣 品
 佐 藤 利 恭 推 薦

セメント系舗装
 基礎工
 農業土木
 航空土木
 高速鐵道
 土木地質學
 應用電氣工學
 土木工事監督
 以上上級の一部

測 量 學
 河 川 工 學
 土 木 工 材 學
 土 木 工 學

砂 防 工 學
 水 力 工 學
 都 市 計 畫

以上初級の一部

内務技監 鈴木雅次
 前内務技監 谷口三郎
 前内務省大販賣所長 佐藤利恭

内容見本
 申込次送急

新會員募集

八田嘉明先生監修 鐵道工學會會長

鐵道工學講座

會費一ヶ月二圓
 五十錢全卷三〇圓
 送料二五錢

全十一卷内容概略

1 鐵道地質 鐵道師 廣田 孝一
 2 線路選定 鐵道師 大木 利彦
 3 線路土工 部長 西岡 宏治
 4 鐵道橋樑 日大教授 成瀬 勝武
 5 鐵道墜道 鐵道師 佐藤周一郎
 6 軌道構造保線 鐵道師 川口 祐康
 7 信號保安設備 所長 藤原 孝一
 8 停車場 鐵道師 岡田 信次
 9 都市鐵道 博士 山崎 巨輔
 10 鐵道車輛 鐵道師 多賀 祐重
 11 初級電氣工學 講義 池田 陽男
 12 工專關係法規 法學 中島安一郎

東京都麹町區飯田町二ノ十一
 鐵道工學會
 振替東京五二二七番

内容見本
 申込次送急

道路改良會編纂發行

A6判 一、二五六頁
レザ1タロース裝函入

改訂
增補

道路職員必携

定價 金五圓

送料 内地 金二十錢
臺灣、朝鮮、滿洲 支那 金廿八錢

本書は道路改良會が夙に懸案としたる道路改良計畫並に其の設計及關係法令等斯道の指針としての良書編纂を特に技術及行政の權威者三十餘名に委嘱して其の執筆に依り完成したるもの、内容の豊富なるは勿論記述も精緻を極め他に比較すべき類書の乏しきものである蓋し斯界人士必讀の良書として推奨するに足る。

目次 第一編總論、第二編道路の設計、第三編土工、第四編道路の排水設備、第五編鋪裝の構造及施工、第六編工作物、第七編都市計畫街路、第八編交通整理及街路照明の施設、第九編道路材料、第十編維持及修繕、第十一編道路用器具機械、第十二編示方書、第十三編法規、附錄測量に關する諸表、道路用語其他

最新刊

道路職員必携補遺

A6判 一四八頁
定價 金壹圓拾六錢
送料 内地 金八錢

本書は「道路職員必携」を改訂増補したる後に於て公布せられたる法規改正せられた示方書、鋼道路橋設計示方書案、木道路橋設計示方書案、鋼道路橋製作示方書案を始め法令の追加として重要産業團體令中改正、行政官廳職權委讓令等凡そ二十件を収録せるものにして「道路職員必携」と併せて必らず座右に備へらるべきものである。

目次 ①鋼道路橋設計示方書案 ②鋼道路橋製作示方書案 ③電弧熔接鋼道路橋設計及製作示方書案
大要 ④木道路橋設計示方書案 ⑤行政官廳職權委讓令 ⑥其他法令追加二十件

東京 都 小石川 區 六 好 文 館 書 店 電 話 小石川 番 九三六 番 二〇九 番 東 都 小石川 區 六 好 文 館 書 店 電 話 小石川 番 九三六 番 二〇九 番

昭和十九年

道路の改良

三月一日

第二十二卷
第三號

言 頭 卷

第八十四帝國議會開院式に際し『今や彼我ノ攻防愈々急ニシテ戦局最モ重大ナリ宜シク億兆一心國家ノ總力ヲ擧ケテ敵國ノ非望ヲ粉碎スヘシ』との聖旨を仰ぎ恐懼感激に堪えず、一億の臣民共心協力全力全智全能を竭くして各職域に奉公し、其の總力を結集すべきは蓋し當然の事である。

衆議院に於ては「戦局今や重大皇國の興廢斯の機に存す我等一億奮然黙起彌々國民の總力を必勝の一點に結集し以て敵米英を撃碎すべし」と決議を爲した、此の決議の如く我等日本國民一億の總力を結集するのみを以て足れりとするか、量を持つむの敵米英を撃碎せんが爲には更らに進んで大東亞諸國の經濟力を決戰的に結集しなければならぬことは言を俟たない所である。大東亞諸國の總力結集につき先づ考へらるゝは土木技術乃至土木工事である。

抑も古代より戰爭には必らず工兵の爲す土木作業か其の作戰の根幹をなしたのである、今でも海戦を除いた總ての陸上戦に於て敵前上陸から第一線陣地に至る作戰の基礎や根幹を爲すものは依然として工兵の作業で其の大部分は土木技術乃至土木工事である。元來和平的文化施設としての土木技術乃至工事即ち道路、橋梁、上下水道の如き施設は轉じて之を直ちに軍用土木に役立たせ得べきものである。彼の自動車工場が戦車工場に轉換せしめ得ると同様に可能である。現に道路、橋梁、上下水道、河川、港灣の工事に従事しておつた土木技術者が陸軍の設營隊に参加し、將兵と共に起居し骨を削り身を殺して其の作業に従ひ補給の重任に奉公して居るのである。斯の如く戰爭に於ても既に着々土木技術が運用せられ其の工事が缺くべからざる任務を果して居るが現代の戰爭は建設を伴ふもので南洋諸國に於て其の實例を見るのであるが此の建設には必ずや土木技術乃至工事を必須的と視なければならぬは疑を容るるの餘地がない。土木技術乃至工事の重大なること敢て吾人の贅言を待つて後知らざる所以である。

ポーランド代表が「自動車交通の少ない國が自動車専用道路を造ることは言語道斷である」といひ佛國の一雜誌が「自動車國道は經濟的見地からは根本的に矛盾である、獨逸が歐洲大陸に跨る道路交通の全系統を掌中に收めようとは無暴も甚だしい」と非難せるにかゝらず、千九三十三年ヒットラー總統が政權を握るや否や國防其の他に巨大な國費を要するにかゝわらず更らに莫大な經費を費やして自動車専用道路を敷行し世人をして驚嘆の目をみはらしたが這次大戰に於て如何に大なる役割を演じて居るか其の實際を見るとき思ひ半ばに過ぐるものがあらう。

要するに土木技術乃至工事が大東亞戰爭作戰上其の根幹を爲し、大東亞諸國總力結集上缺くべからざる施設であるに於ては吾曹は官民相信じ、相頼り、疑ふ所なく大東亞を綜合的に結集すべき土木技術乃至工事に着眼し茲に精進すべきものたるを提唱するものである。(洗民)